

# 令和2年度 自己評価書

R3.02.22. 高水高等学校・同付属中学校

1. 建学の精神:徳性の陶冶—教育による人格の錬成—
2. 校訓:○師弟親愛 ○堅実明朗 ○勤劳実践
3. 前年度の成果と課題

【 成 果 】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第2期ICT整備計画を遂行し、ICT化に向けた校舎、教室等の整備が一層進んだ。</li> <li>2. ICTによる授業改善の一環として、個人用タブレットを活用した新たな取り組みを来年度から実施できる目途が見ついた。</li> <li>3. 校務支援システム導入に向けての計画が実現可能な段階に達することができた。</li> <li>4. 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が研究授業をてこに計画的に進められた。</li> <li>5. 普通科入試の改革に着手し、今年度一定の成果を得た。</li> <li>6. 新しい学校教育の課題（ICT、評価、新入試への対応等）解決に向けた分掌業務の適正化が進んだ。</li> </ol>
【 課 題 】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新学習指導要領の実施に向けた学習内容・方法・評価の見直しについて、その取り組みが急がれる。</li> <li>2. 組織的な研修制度の構築が不十分である。</li> <li>3. 令和3年度中に全教職員が個人用タブレットを所持し、大幅なペーパーレス化を断行する。</li> <li>4. 年度末までの1年間で校務支援システムを完成導入し、業務の効率化を実現する。</li> <li>5. 生徒の自己肯定感の醸成が図られていない。</li> <li>6. 生徒の基礎学力の向上と家庭学習の定着が不十分であった。</li> <li>7. 生徒会費の収支にアンバランスが生じてきたため、早急に予算の見直しを行わねばならない。</li> </ol>

## 4. 令和2年度学校経営計画

- (1) 使命(ミッション): 地域社会における自校の使命  
創立以来の人間教育を受け継ぎ、社会に貢献できる人物を育成する
- (2) 将来像(ビジョン): 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像  
生徒の夢(志)や目標を実現させることができ、地域住民から期待され信頼されている学校
- (3) 経営目標(目指す学校像)
  - ①生徒に教養を身につけさせ、夢や目標を実現させる学校
  - ②生徒に社会人として必要なルールとマナーを身につけさせる学校
  - ③地域社会から愛され信頼される学校
- (4) 目指す生徒像
  - ①自己の夢(志)や目標の実現を目指してひたむきに努力する生徒
  - ②自ら考え判断し、協働して課題を見つけ解決ができる生徒
  - ③高水学園の一員としての誇りを持ち地域社会に貢献する生徒
- (5) 目指す教師像
  - ①熱意と意欲に満ちた教師
  - ②いつも生徒に向かい合い、ともに考えられる教師
  - ③常に学び続ける教師
- (6) 今年度の重点目標—人間性の保障・学力の保障・進路の保障—

【生徒】「時を守り、場を清め、礼を正す」～ポジティブ思考で～

1. 特別活動や部活動等を通して豊かな心や社会性を育む
2. 基礎・基本学力の定着、学習規律の確立
3. 「1つ上の目標」に挑む進路実現

【教職員】「時を守り、場を清め、礼を正す」～ポジティブ思考で～

(7) チャレンジ目標 (生徒)

1. 5分前考動
2. 整理整頓
3. 先に元気な挨拶
4. 1%を誰かのために ボランティア活動への参加

## 5. 基本行動方針2020(教職員の目標と心得)

1. 『わかる・できる・使える』授業の提供を追求しよう。 ～授業相互参観・研究授業・授業アンケートの活用～
2. 教職員から積極的に生徒へ明るい元気な挨拶・声掛けをしよう。
3. 教職員らしい自覚をもった服装、言葉遣いを心掛けよう。
4. 生徒指導において見て見ぬふりをしないで、全員で一致協力しよう。『生徒は教員を見て育つ』ときには生徒の壁になろう。  
～指導したら最後まで見届け、従わない場合には学年主任・生徒指導部へ連絡報告～
5. 担任は副担任・学年主任・科長と協力してクラス運営の充実を図ろう。 ～学年・学級便りを発行して保護者へ情報を発信～
6. 家庭訪問の実施を心掛けよう。
7. 教員自ら先を見据えた行動をしよう。 ～必要な場合は、速やかに科長・教頭へ連絡する～
8. ホームルーム活動・学校行事・生徒会活動や部活動の活性化を図ろう。
9. 学校や生徒に関する情報共有をお互いに心掛けよう。
10. 勇気を持ってチャレンジしよう。

6. 各学年の達成目標と目標達成の方策

学年	達成目標	目標達成の方策	達成状況(最終報告)	達成度	
中1	進路保障 学障力Ⅱ 保人 格保 障(＊ 業を 人間 とし する ＊基 礎力 期＊ 日本 語の 運用 能力 主義) 十	1. 基本的な生活習慣の確立	1. 友人を思いやる気持ちをもった生徒は多い。しかし、けじめがつかない時があるので来年度へ向けての課題である。 2. 全体の4割程度 3. 32%	3	
中2		中1:けじめ・思いやり 規律正しく、人に優しく 中2:協力・協調 他人を理解し、自己を知る 中3:自主性・積極性 自分の考え、意見を持つ 2. 1日2時間の自学自習 3. 学力推移総合偏差値52以上 学年受験生の5割	①英語と数学は毎日宿題を課し、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ②楽学テストでの習得範囲を意識させ、自学自習の習慣を身につけさせる。 ③生活実態調査等によって学習習慣状況を把握し個別指導に役立てる。 ④個人指導を重視する。 3. ①成績上位層に対する課題や補習を工夫する。 ②成績下位者に対する早朝・放課後の指導を行う。	1. ホームルーム活動を通して、仲間と協力して勉強し、学び合うことができた。特に数学にかける時間が多く、わからない場合は分かる人に聞くことができるようになった。 2. 6割弱程度の生徒が家庭学習2時間以上を申告している。 3. 42.3%	3
中3			1. 成績上位者を中心に自主的な学習が見られるようになった。 2. 全体の5割程度 3. 46%	3	
六1		1. コミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力を身につける 2. 基礎学力の向上とともに得意科目をつくり、文理選択に備える 3. 1日3時間自学自習 進研記述の総合偏差値57以上 学年受験生の5割	1. 総合的な探究の時間・LHRを中心に楽学祭、修学旅行、合同発表会を通じて能力向上の機会を提供する。 2. キャリア教育を充実させ、進路研修と個別指導を併用する。 3. 学習意欲の高い生徒および成績上位者への指導を強化する。	1. 修学旅行は延期となったが、総合的な探究の時間と合同発表会を連動させながら、能力向上の機会を提供することができた。 2. 文理選択を踏まえて、個人面談の時間や各自で目標を設定し振り返る時間を多く設けた。 3. 33%(18人中6人) 参考として55以上は50%(18人中9人)	3
六2		1. マネージメント能力及びチームワーク能力を身につける 2. 学部学科選択を意識し得意教科を2教科作る 3. 1日4時間自学自習 共通テストレベルで平均点以上を 進研記述の総合偏差値57以上 学年受験生5割	1. 楽学祭や合同発表会のリーダーを務めさせ、会の進行や運営の経験を通じて能力向上の機会を提供する。 2. 総合的な探究の時間を通して指導をおこなう。大学オープンスクールへの参加や定期的な個別指導を通して指導をおこなう。 3. ウインターセミナーによって受験体制への移行を意識化させる。	1. 楽学祭ではクラス単位で協力し、取り組めた。今年はコロナ禍で学校行事がなくなり、例年に比べて機会が少なかった。 2. 総合的な探究の時間では興味関心の強いことについて積極的に調べ自分の言葉でまとめた。模試の後など個人面談を重ね、進路について真剣に考えた。 3. ウインターセミナーを通じて使用参考書など事前に取り組む内容を決め、どの生徒も受験生としての意識も芽生えてきている。 33%	3
六3		1. 第一志望大学合格を達成する 2. 国公立二次や私大一般入試対策を徹底する 3. 1日5時間自学自習 進研記述の総合偏差値50以上 学年受験生の7割	1. 保護者説明会等を活用し、保護者の理解を得た上で、受験勉強を通じた能力向上を意識化させる。 2. 放課後補習や夏期講習会を実施する。 3. 学年のムードづくりを心がけ、進学講話会を通じ大きく意識変革する。	1. 学校設定の面談日だけでなく、個々の事情に合わせた面談を行い、保護者・生徒ともに納得した出願を行うことが出来た。 2. 共通テスト後には、国公立2次試験に向けた個別指導を行うことが出来た。 3. 29%	3
普1	基本的な生活習慣の確立	5分前行動(時間を守る) 1. 8:15 13:05 着席指導 2. 各クラスで月ごとの出席状況チェック 3. あいさつ、身だしなみの指導	1. 遅れることが多い生徒は指導した。 2. 月ごとにチェックはしなかった。 3. 生徒指導部を中心に検査を行った。例年に比べて退学者が少なく、この数年では落ち着いている学年である。	3	
普2	進路決定を早期に行い、実現に向けて努力する	1. 担任が個人面談を積極的に行い、生徒に情報を提供したり、アドバイスをする。 2. インターシップの準備や本番を通して、職業観などを養う。	1. 面談を利用して進路について各自真剣に考えた。また、遅刻の多い生徒など生活の乱れがちな生徒については学年指導を行った。 2. ボランティア活動について、ワークショップ、福祉体験、講話、清掃活動を通して理解を深めた。	3	
普3	希望進路の実現	1. 担任や副担任・進路指導部の先生方等と個別面談を行い、より適切な進路を模索させる。 2. 就職ガイダンスへの参加、職場見学を通じて、社会の一員となる心構えを持たせる。	1. 担任が中心となり、関係各位と連携しながら、より適切な進路選択をさせることができた。 2. 現時点で100%には、わずかに届かないものの、非常に高い水準で内定をもらっている。春から社会人となる準備も授業を通して進められている。	3	

7. 各教科の達成目標と目標達成の方策

	達成目標	目標達成の方策	達成状況(最終報告)	達成度
国語	1. 授業の質の向上 2. 新しい入試への対応	1. ①観点別評価を見直し、評価に基づいた授業を行う。 ②相互授業参観、研究授業を実施する。 ③校外の説明会・研究会に積極的に参加し、得た情報を教科内で共有する。 2. 新入試に対応した、複数の資料を読み取るような読解力を高める授業を研究する。	1. ①各観点の評価につながる授業を行うことに努めた。 ②コロナの関係で行えていない。 ③コロナの関係で行えていない。 2. 共通テストを意識した授業、問題演習を行った。結果について検討し、来年度に繋げたい。	3
地 公 社	1. 科・学年・コースに応じた指導を心掛ける 2. 社会の「生きた授業」の構築	1. ①個々の生徒の現状について担任と密に連絡を取り、指導を進めていく。 ②習熟度を把握し、板書等の工夫を図りつつ、質問しやすい授業展開に努める。 2. 高校課程においても「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を心がける。	1. 気になる生徒については、早めに担任に報告した。 2. 視聴覚教材の活用など、意識した授業展開の工夫も見られた。	3
数 学	1. 基礎的・基本的な知識の習得と技能の習熟を目指す 2. 習得した知識、習熟した技能を的確に活用する能力を伸ばすことを目指す 3. 数学的な見方や考え方のよさを認識できることを目指す	1. 生徒の実態に応じた学習内容の精査。 2. 副教材を利用し、演習を通して自ら学び課題解決する力を養う。 3. 「わかる授業」「充実した授業」となるように、各教員が研鑽を積む(相互授業参観、自己研修、校外の説明会や研究会への参加)。	1. 授業担当者間で相談して、該当クラスに応じた学習内容を精査することができた。 2. 学習意欲に差があり、演習に取り組む姿勢にも差が出てしまうが、できる限り自ら取り組むように仕向けた。 3. コロナ禍で、校外研修や授業参観は中止となり、自己研修に頼ることとなったが、各自教材研究をしっかりとっていた。	3
理 科	1. 基本的知識、技能の習得 2. 主体的、能動的学習の視点からの授業改善 3. 新しい大学入試に対応できる力の育成	1. 個々の生徒の実態に合わせて、担任と連絡をとりながら、学習展開を進めていく。 2. 思考力の向上を促す実験・生徒の関心度の高いIC教材等を利用し、相互授業参観を通じ研鑽を積む。 3. 自己研修・校外の説明会・研修会への参加を行い、情報を教科内で共有していく。	1. 一年間試してきた方策の中から、効果が大きいのは「生徒への指示の簡潔具体性化」ということになった。 2. オンライン授業における課題、ビデオ作り、デジタル教材の利用など、教員の指導力の幅も広がった。 3. 入試改革に対応できるよう、今年度から始まった共通テストの講評をはじめ、本校の入試においても研修を繰り返し工夫を凝らした。	3
英 語	1. 自学を促し能動的に授業が取り組めるような授業工夫 2. 学力差を配慮したわかりやすい授業展開 3. 4技能のバランスを意識した授業展開	1. 宿題を課し、家庭学習の習慣をつけさせ、授業に主体的に取り組めるよう促す。 2. 個々の生徒の学力に見合う基本テキスト等によって補完してゆく。 3. 日々の指導の手を緩めない。	1. グーグルクラスルームやロイノートを活用して、新たな授業展開につなげることが出来ている。 2. 生徒の学力差に応じて、個別での対応もできている。 3. 担当するクラスによって差はあるものの、バランスを意識した授業展開に努めている。	3
保 健 体 育	1. 授業中の安全管理と規律ある授業 2. 施設・設備のこまめな点検や修繕	1. 根気強く、できるまで指導する。 2. 空き時間の有効活用。	1. 生徒の感染症に対する意識が低く、そのあたりの徹底が難しかった。 2. 予想外の破損に対して、修繕などの処理に戸惑うことがあった。しかし、例年よりもしっかりとできた。	4
芸 術	1. 生徒と共に、成長する 2. 生徒の基本的な生活習慣をより高める	1. 謙虚さを根拠として、日々の研鑽を怠らない。 2. 科の申し合わせ事項(重点目標)に対して共通理解を深めると共に、歩調を保つ。	1. 生徒の家庭学習に対して、コロナ禍だからこそ、より充実した課題を検討し、提示した。 2. 共通理解の意識を高め、個に応じた対応を心掛けた。	4
家 庭	1. 体験的な学習活動を通して、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる 2. 授業を通して社会に必要なマナーやルールを身につけさせる	1. 実技、実習の時間を多く設定する。 2. 食事のマナーや制服の着こなしなどについて学習内容に取り入れ、授業で取り扱う。	1. 新型コロナウイルス感染予防のため制限もあったが、クラス状況に応じて、できる限り実技時間を設定することに努めた。 2. 授業で取り扱うことができた。実生活で実践する意識も高めていきたい。	3
情 報	1. 情報モラルやマナーを身に付ける 2. 情報リテラシーを身に付ける	1. SKYMENUを活用して幅広い内容を指導する 2. PCを積極的に活用し様々な能力を身に付けさせる	1. PCを共有するため、換気・消毒・掃除など、対策と対応に追われた 2. PowerPointを重視した内容に取り組み、様々な課題を通してスキルアップを計った。	4
キ ャ リ ア	1. 生徒の状況把握に努める 2. コース・学年に応じた指導を心掛ける	1. ①担当教員間で指導内容の意見交換を図る。 ②個々の生徒の希望進路について、担任・学年団・関係教員とも連携を図る。 2. 進路指導用教材を効果的に活用できるよう工夫する。	1. ①内容の意見交換はほぼできている。 ②希望進路についての、連携は大体できている。 2. 教材の効果的な活用はまだ工夫の余地がある。	3

8. 各分掌等の達成目標と目標達成の方策

	達成目標	目標達成の方策	達成状況(最終報告)	達成度
総務部	1. 総務部各業務の効率的なマネジメントを目指す 2. PTA活動の活性化の手助けを円滑に行う	1. 総務の業務内容全般を把握し、円滑に業務が進むようにする。 2. PTA関係の業務は出来るだけ早めに開始し、余裕を持たせる。	1. 各業務のポイントを事前に担当者と共に共有し、比較的スムーズに遂行できた。 2. コロナ禍、起きるであろうことを予測し、早めの対応ができた。	3
教務部	1. 状況に対応する 2. 新課程の教育課程を整える	1. 新型コロナの感染拡大防止に伴う様々なことに予め予測し対応する。 2. 2年後に迫ってきた(高校)新課程の教育課程、また中高それぞれの観点別評価の評価規準などを完成させる。	1. 幸いなことに、6月以降は影響を受けることなく学校生活が運営できている。 2. 11月までにある程度の準備はできた。入試が終わり、これから再度話を進めていかなければならない。	3
生徒部	1. 師弟親愛・・・信頼される生徒指導 2. 堅実明朗・・・主体性を育む生徒指導 3. 勤労実践・・・率先垂範の生徒指導 4. 2020年目標「マナー向上」と「交通事故ゼロ」を目指す 5. 「気持ちの良い挨拶」で山口県1番を目指す	1. 生徒・保護者・教職員が三位一体となり、生徒を目標達成に向け導く。 2. 人間教育を重視し高水生としてプライドを持てるよう導く。 3. 教師が手本となり、社会に貢献できる人物となるよう生徒を導く。 4. 教職員自らが「時を守り、場を清め、礼を正す」を心掛け生徒の手本となる。生徒会が中心となりマナー向上とルール厳守の喚起をする。 5. 相手よりも先に、笑顔で丁寧に、心に届く、気持ちの良い挨拶をする。	1～3. 校訓を柱として全教職員が共通理解のもと生徒指導を行った。今後も時代の変化に合わせてつつも、本校として大切なことはゆるがせにせず生徒指導を行う。 4. 今年度はコロナ禍の中で様々な生徒指導部主催の行事が中止となった。そのため生徒への注意喚起や意識向上の機会が少なかったが、生徒会を中心に「マナー向上」と「交通事故減少」を目指した。昨年に比べ、マナーに関する外部からの連絡は減ったが、交通事故件数は大幅な増加となってしまった。来年度に向けよく検証し改善を図っていきたい。 5. 早朝指導や下校指導の中で特に「気持ちの良い挨拶」を心掛けた。以前よりも明るく元気な声で挨拶をする生徒が増えたように感じる。	3
	いじめ防止	いじめの未然防止と早期発見、早期解決に学校全体で取り組む	各学期にいじめアンケートを実施し、いじめ対策委員会で情報を共有し、迅速かつ組織的に対応する。	各学期のアンケート結果を踏まえ、いじめ対策委員会で教員間の情報共有と組織的対応について周知徹底した。現在は、科と学年を中心に良く対応できている。今後も「いじめは何処でも誰にでも起こりうる」という認識のもと「見えないものを見る力、触れないものを感じる力」を大切にして、全教職員が「いじめは絶対に許さない」という毅然とした態度で、未然防止・早期発見・組織的対応に努めていく。
進路指導部	1. 教員の共通理解と組織化を促す会議の充実 2. 保護者進路説明会の充実 3. 生徒進路研修会の充実 4. 本校独自のキャリア教育の進展 5. 偏差値に頼らない大学選びの研究 6. 分担の責任の自覚とその責務の達成を図るためのコミュニケーションの充実化	1. ①高3進路指導連絡会②模試検討会を実施する。 ②については基準模試成績返却の度に開催する。(個人成績の分析強化や問題研究) 2. 1学期中に高3・高2・高1の保護者進路説明会を実施する。(外部講師の活用) 3. 進路研修会の回数と内容の再点検。 4. 総合的な学習・探究、LHR、(道徳)をキャリア教育の範疇に位置づけ、学年団で年間計画を立案する。中高6カ年課程については、環境教育と国際理解教育を柱とし、課題研究を系統的・組織的に実施する。プレゼンテーション能力の向上にも着目し、養成も図る。 5. 大学の教育力や就職力の研究を実施する。 6. 役割分担表を掲示する。進路関係行事の際には早めに打ち合わせを実施する。	1. 予定通り実施した。 ①年間スケジュールの確認を実施し、共通理解を図った。 ②分科会方式で開催。個々の生徒の情報交換を通じて、指導の在り方を確認した。 2. 6月予定の高1・高2の大学説明会(外部講師)については、延期して開催(11/19)。同日に高2就職説明会を開催。 3. 本年度については多々日程変更が生じたが、概ね円滑に遂行できた。次年度については、本年度の計画を踏襲予定。 4. 科別で計画し、実施。中高6カ年課程については、個別ゼミを編成して活動。高3については進路研究・指導を中心に取り組んだ。 5. 具体的な取り組みは不十分。 6. 役割分担に基づき、業務を進めた。ただ、行事に際しては、掲示物など、準備不十分な点が見受けられた。	3
保健部	1. 生徒の健康・安全を最優先に考え保健指導や怪我の防止に努める 2. 新型コロナウイルス感染防止対策	1. 健康診断・健康調査を基に健康指導をするとともに怪我や緊急時の対応を迅速かつ的確に行う。 2. 新型コロナウイルス感染防止対策として、3密を避ける、換気、マスクの着用、手洗い、消毒を喚起する。	1. 教員が生徒の状態や状況をしっかりと把握していたための確かなアドバイスや対応ができた。 2. 新型コロナウイルス感染症の対策として3密・換気・マスクの着用・手洗い・消毒等学校全体で取り組み対応した。	3
事務室	1. 諸会計事務の迅速化 2. 来校者への誠意ある対応 3. 校内安全管理の徹底	1. 校納金の滞納者を減少させるために就学支援金や減免制度を周知徹底する。 2. 電話の対応を丁寧にし、来校者には笑顔で接する。 3. 事務職員と教員との共通理解をはかる。	1. 該当者には周知徹底を図った。 2. 丁寧に対応している。 3. 担任と緊密に連絡している。	4

9. 学校運営の達成目標と目標達成の方策

達成目標		目標達成の方策	達成状況(最終報告)	達成度
特別活動	1. 生徒の自主性を大切にしながら、さらに主体性を活かした集団活動の推進 2. 部活動の統廃合を図る	1. ホームルームや学校行事の活動等に対して生徒会と連携しながら早い段階での取り組みを行う。 2. 各部の活性化を図るとともに、再編に向けての具体案を作成する。	1. コロナ禍の中で生徒会主催の行事の一部が中止になり、全校集会も厳しい状況下であったが、生徒会役員を中心にアイデアを出して意欲的に活動をしてくれた。 2. 部活動の統廃合に着手し始めたが、次年度以降の検討課題となった。	2
学校運営	1. 授業・特別活動・部活動等の活動を通して生徒の自己肯定感を醸成する 2. 普通科・六年制普通科・付属中のそれぞれの特色を活かし伸ばすとともに地域に発信する	1. 生徒の自主性を大切にしながら、肯定的な思考と言葉掛けを実践する。 2. 教職員一人ひとりが組織の一員としての役割を意識し、積極的に学校運営に参画する体制の推進を図る。	1. コロナ禍のためベップトークの生徒・教職員の研修会が今年度中止になり、思うような活動が実践できなかった。 2. 普通科・六年制普通科・付属中の科長、主事を中心に教職員の共有と協働に取り組むことができた。	2
業務改善	学校の組織等	1. 校内研修等により綱紀保持意識を高揚させ、具体的に実践する。 2. 校務分掌の役割分担等の見直しと改善を図る。	1. 校内研修の時間が取れず、職員会議の場で校長・教頭で研修を行った。 2. 教頭を中心に校務分掌の見直しと改善を行った。	2
	日常的な業務	1. ICTの活用による業務の効率化を図る	1. 校務支援システムを構築する。 2. 教員用iPadの配付と校内LANの整備はできたが、校務支援システムの導入は予算の関係でできなかった。	2
	勤務状況	1. 勤務時間適正化と時間外業務時間の縮減推進	1. ①長期生徒休業中や考査期間中を利用して年休の取得率を向上する。 ②日常業務効率化を推進し、残業時間縮減を意識し、実行する。	1. ①年休の取得率は向上した。 ②ICTを活用した日常業務効率化と残業時間縮減は徐々にではあるが、実行できている。

10. 本年度の取り組みの成果と課題

【成果】	<p>1. 校内LANの敷設によって、全校舎・教室でwi-fiが使えるようになり、パソコン教室のPCの新規入れ替え、プロジェクターの配置等、ICTの設備整備が完了した。</p> <p>2. 高校1学年分の生徒に対応する、いわゆる一人一台端末の使用が可能となった。</p> <p>3. コロナ禍の学習支援にあたり、Googleフォームを使っての全教職員による研修を実施するなど、体制固めが進んだ。</p> <p>4. 教員にタブレットの配付が完了し、ペーパーレス化に取り組めた。</p> <p>5. 新学習指導要領の実施に向けた学習内容・方法・評価の見直しについて着手できた。</p> <p>6. 生徒会費の収支の改善に向けての取り組みに着手できた。</p> <p>7. 学校図書館における、蔵書管理上の不適切な状況について、会計士の指導に沿った改善が進んだ。</p> <p>8. 中学・六年制普通科では基礎学力の向上への取り組みが図られている。</p>
【課題】	<p>1. 校務支援システムが予算の関係で構築できなかった。</p> <p>2. コロナ禍によって、予定していた生徒の自己肯定感を高めるための研修(ベップトーク)が実施できなかった。</p> <p>3. 生徒の基礎学力の向上と家庭学習の定着に各科でばらつきがあった。</p> <p>4. 校舎と校内の施設設備の老朽化が目立ち始めているが、その改修・修繕が予算の関係もあり、なかなか進捗しない。</p> <p>5. 時代の要請に沿った教育の高度化を実現するため、すべての教員がICT活用のスキル向上を図る。</p> <p>6. 5. を推進するために、ICTを活用した研究授業の実施し、オンラインを含めたさまざまな研修の機会を提供していく。</p> <p>7. 業務のペーパーレス化と効率化を一段と進めるために、会議資料や各分掌が所管する文書等について、データ管理体制を強化する。</p> <p>8. 7. を推進するための人的配置について、校務分掌の組織再編と絡めながら力の発揮できる体制作りを急ぐ。</p> <p>9. 一人一台端末の活用について、生徒指導上の課題も念頭に置きながら、有効な活用方法の研究を進めるとともに、教員間の共通理解を図る。</p> <p>10. 生徒指導の難しい生徒に対して、指導のスキルアップと該当生徒へのかかわり方について研修研究を進めるとともに、教員間の共通理解を図る。</p>